

タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001901	科目番号	15170019
授業科目名	経済概論		
編集担当教員	福澤 勝彦		
授業担当教員名(科目責任者)	福澤 勝彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福澤 勝彦, 山口 純哉		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	kfuku@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所 2階福澤研究室		
担当教員TEL	経済357		
担当教員オフィスアワー	木曜日1時~3時		
授業の概要及び位置づけ	<p>(福澤) ミクロ経済学を学ぶことで何がわかるかを学ぶとともに、経済学の対象、考え方、論理の進め方の基礎を学ぶ。</p> <p>(山口) 新聞紙上のマクロ経済にかかる事象について論じるために必要な考え方を学ぶ。</p>		
授業到達目標	<p>(福澤) ミクロ経済学の手法を説明できるようになることを目標とする。</p> <p>(山口) マクロ経済にかかる事象を理論的に説明できるようになることを目標とする。</p>		
授業方法 (学習指導法)	(福澤・山口) 毎回レジュメを配布し、講義形式で進める。		
授業内容	<p>(概要) 経済学部で学ぶために必要なマクロ経済およびミクロ経済の基礎について概説する。</p> <p>(福澤) 第1回 経済学を学ぶ意味 第2回 経済学の方法と10大原理 第3回 比較優位とは何か 第4回 アイスクリームの需要はどう表されるか？ 第5回 アイスクリームの供給はどう表されるか？ 第6回 アイスクリームの価格はどう決まるのか 第7回 価格と資源配分はどのように変化するのか？</p> <p>(山口) 第8回 景気と景気循環1 第9回 景気と景気循環2 第10回 失業、インフレーションとデフレーション 第11回 国際収支と為替レート 第12回 財政政策と金融政策</p>		

	第13回 政府の役割と財政赤字 第14回 現在のマクロ経済情勢 第15回 まとめ 第16回 試験およびまとめ
キーワード	ミクロ経済学、マクロ経済学
教科書・教材・参考書	(福澤) テキスト：マンキュー『入門経済学』東洋経済新報社。 (山口) テキスト：伊藤元重[2001]『入門経済学（第2版）』日本評論社。
成績評価の方法・基準等	期末試験（100%）。60点以上を合格とする。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505000701	科目番号	15050007
授業科目名	現代経済概論		
編集担当教員	福澤 勝彦		
授業担当教員名(科目責任者)	福澤 勝彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福澤 勝彦, 山口 純哉		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	kfuku@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所 2階福澤研究室		
担当教員TEL	経済357		
担当教員オフィスアワー	木曜日1時~3時		
授業の概要及び位置づけ	<p>(福澤) ミクロ経済学を学ぶことで何がわかるかを学ぶとともに、経済学の対象、考え方、論理の進め方の基礎を学ぶ。</p> <p>(山口) 新聞紙上のマクロ経済にかかる事象について論じるために必要な考え方を学ぶ。</p>		
授業到達目標	<p>(福澤) ミクロ経済学の手法を説明できるようになることを目標とする。</p> <p>(山口) マクロ経済にかかる事象を理論的に説明できるようになることを目標とする。</p>		
授業方法 (学習指導法)	(福澤・山口) 毎回レジュメを配布し、講義形式で進める。		
授業内容	<p>(概要) 経済学部で学ぶために必要なマクロ経済およびミクロ経済の基礎について概説する。</p> <p>(福澤) 第1回 経済学を学ぶ意味 第2回 経済学の方法と10大原理 第3回 比較優位とは何か 第4回 アイスクリームの需要はどう表されるか？ 第5回 アイスクリームの供給はどう表されるか？ 第6回 アイスクリームの価格はどう決まるのか 第7回 価格と資源配分はどのように変化するか？</p> <p>(山口) 第8回 景気と景気循環1 第9回 景気と景気循環2 第10回 失業、インフレーションとデフレーション 第11回 国際収支と為替レート 第12回 財政政策と金融政策</p>		

	第13回 政府の役割と財政赤字 第14回 現在のマクロ経済情勢 第15回 まとめ 第16回 試験およびまとめ
キーワード	ミクロ経済学、マクロ経済学
教科書・教材・参考書	(福澤) テキスト：マンキュー『入門経済学』東洋経済新報社。 (山口) テキスト：伊藤元重[2001]『入門経済学（第2版）』日本評論社。
成績評価の方法・基準等	期末試験（100%）。60点以上を合格とする。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001902	科目番号	15170019
授業科目名	経済概論		
編集担当教員	山口 純哉		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 純哉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 純哉, 福澤 勝彦		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	山口 : junya-y@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	山口 : 東南アジア研究所215号室 福澤 : 東南アジア研究所212号室		
担当教員TEL	山口 : 326 福澤 : 357		
担当教員オフィスアワー	毎週木曜日12:00-13:00		
授業の概要及び位置づけ	マクロおよびミクロ経済学の基礎的知識を習得する。		
授業到達目標	(山口) マクロ経済にかかる事象を理論的に説明できるようになることを目標とする。 (福澤) ミクロ経済学の手法を説明できるようになることを目標とする。		
授業方法 (学習指導法)	(山口・福澤) 毎回レジュメを配布し、講義形式で進める。		
授業内容	<p>(概要) 経済学部で学ぶために必要なマクロ経済およびミクロ経済の基礎について概説する。</p> <p>(山口) 第1回 景気と景気循環1 第2回 景気と景気循環2 第3回 失業、インフレーションとデフレーション 第4回 国際収支と為替レート 第5回 財政政策と金融政策 第6回 政府の役割と財政赤字 第7回 現在のマクロ経済情勢</p> <p>(福澤) 第8回 経済学を学ぶ意味 第9回 経済学の方法と10大原理 第10回 比較優位とは何か 第11回 アイスクリームの需要はどう表されるか？ 第12回 アイスクリームの供給はどう表されるか？ 第13回 アイスクリームの価格はどうか決まるのか？ 第14回 価格と資源配分はどのように変化するのか？ 第15回 まとめ</p>		

	第16回 講義総括（試験を含む）
キーワード	
教科書・教材・参考書	(福澤) テキスト：マンキュー『入門経済学』東洋経済新報社。 (山口) テキスト：伊藤元重『入門経済学（第3版）』日本評論社。
成績評価の方法・基準等	期末試験（100%）。60点以上を合格とする。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505000702	科目番号	15050007
授業科目名	現代経済概論		
編集担当教員	山口 純哉		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 純哉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 純哉, 福澤 勝彦		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	junya-y@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所215号室		
担当教員TEL	095-820-6326		
担当教員オフィスアワー	毎週木曜日12:00-13:00		
授業の概要及び位置づけ	マクロおよびミクロ経済学の基礎的知識を身につける。		
授業到達目標	(山口) マクロ経済にかかる事象を理論的に説明できるようになることを目標とする。 (福澤) ミクロ経済学の手法を説明できるようになることを目標とする。		
授業方法 (学習指導法)	(山口・福澤) 毎回レジュメを配布し、講義形式で進める。		
授業内容	(概要) 経済学部で学ぶために必要なマクロ経済およびミクロ経済の基礎について概説する。 (山口) 第1回 景気と景気循環1 第2回 景気と景気循環2 第3回 失業、インフレーションとデフレーション 第4回 国際収支と為替レート 第5回 財政政策と金融政策 第6回 政府の役割と財政赤字 第7回 現在のマクロ経済情勢 (福澤) 第8回 経済学を学ぶ意味 第9回 経済学の方法と10大原理 第10回 比較優位とは何か 第11回 アイスクリームの需要はどう表されるか？ 第12回 アイスクリームの供給はどう表されるか？ 第13回 アイスクリームの価格はどう決まるのか 第14回 価格と資源配分はどのように変化するか？		

	第15回 まとめ 第16回 講義総括（試験を含む）
キーワード	
教科書・教材・参考書	（福澤）テキスト：マンキュー『入門経済学』東洋経済新報社。 （山口）テキスト：伊藤元重『入門経済学（第3版）』日本評論社。
成績評価の方法・基準等	期末試験（100%）。60点以上を合格とする。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001701	科目番号	15170017
授業科目名	経営概論		
編集担当教員	後藤 祐一		
授業担当教員名(科目責任者)	後藤 祐一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	後藤 祐一, 土橋 力也		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	yuichi-g@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所314		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	原則として講義終了後		
授業の概要及び位置づけ	企業経営に関する身近な話題をとりいれながら、企業活動や組織運営の基礎理論を学ぶとともに、企業活動の背景にある基本的な「経営原理」への理解を図る。		
授業到達目標	この授業では、さまざまな企業活動がどのように生じ、それがなぜ必要とされるのかなどを考えていくための題材や考え方が示される。受講生はこの学習に基づき、企業経営に関する疑問点や問題点を発見・整理し、これを解いていく力を身につけていくことができる。		
授業方法 (学習指導法)	必要に応じ、プリント、ビデオ、教材提示装置などを利用して、講義形式で行う。また、グループワークも行うことがあるので、積極的に授業に参加することが求められる。		
授業内容	(後藤担当分) 第1回 インTRODクシヨN 第2回 組織と個人 第3回 モチベシヨN① 第4回 モチベシヨN② 第5回 リーダシッP① 第6回 リーダシッP② 第7回 まとめ (土橋担当分) 第8回 インTRODクシヨN 第9回 経営学の全体像 第10回 会社とはなにか 第11回 企業統治とCSR 第12回 組織と戦略① 第13回 組織と戦略② 第14回 まとめ 第15回 最終まとめ (土橋・後藤)		

キーワード	会社, 企業経営, 経営環境
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。
成績評価の方法・基準等	両教員が50点ずつを持ち分とする。 土橋担当分は, 期末試験50点とする。 後藤担当分は, 期末試験50点とする。
受講要件 (履修条件)	なし
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	受講生は二人の教員の講義を連続して受ける (どちらか一方の教員の講義のみを受けることのないように)。講義中の私語は認めない。新聞などの最新の報道に関心を持つこと。



タイトル「2014年度シラバス (多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科)」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505000501	科目番号	15050005
授業科目名	現代経営概論		
編集担当教員	後藤 祐一		
授業担当教員名(科目責任者)	後藤 祐一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	後藤 祐一, 土橋 力也		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	yuichi-g@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所314		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	原則として講義終了後		
授業の概要及び位置づけ	企業経営に関する身近な話題をとりいれながら、企業活動や組織運営の基礎理論を学ぶとともに、企業活動の背景にある基本的な「経営原理」への理解を図る。		
授業到達目標	この授業では、さまざまな企業活動がどのように生じ、それがなぜ必要とされるのかなどを考えていくための題材や考え方が示される。受講生はこの学習に基づき、企業経営に関する疑問点や問題点を発見・整理し、これを解いていく力を身につけていくことができる。		
授業方法 (学習指導法)	必要に応じ、プリント、ビデオ、教材提示装置などを利用して、講義形式で行う。また、グループワークも行うことがあるので、積極的に授業に参加することが求められる。		
授業内容	(後藤担当分) 第1回 インTRODクシヨN 第2回 組織と個人 第3回 モチベシヨN① 第4回 モチベシヨN② 第5回 リーダシッP① 第6回 リーダシッP② 第7回 まとめ (土橋担当分) 第8回 インTRODクシヨN 第9回 経営学の全体像 第10回 会社とはなにか 第11回 企業統治とCSR 第12回 組織と戦略① 第13回 組織と戦略② 第14回 まとめ 第15回 最終まとめ (土橋・後藤)		

キーワード	会社, 企業経営, 経営環境
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。
成績評価の方法・基準等	両教員が50点ずつを持ち分とする。 土橋担当分は, 期末試験50点とする。 後藤担当分は, 期末試験50点とする。
受講要件 (履修条件)	なし
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	受講生は二人の教員の講義を連続して受ける (どちらか一方の教員の講義のみをうけることのないように)。講義中の私語は認めない。新聞などの最新の報道に関心を持つこと。



タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001702	科目番号	15170017
授業科目名	経営概論		
編集担当教員	土橋 力也		
授業担当教員名(科目責任者)	土橋 力也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土橋 力也, 後藤 祐一		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	trikiya@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所 308室		
担当教員TEL	095-820-6355		
担当教員オフィスアワー	授業終了後。その他の時間を希望する場合は、アポイントを取って下さい。		
授業の概要及び位置づけ	企業経営に関する身近な話題をとりいれながら、企業活動や組織運営の基礎理論を学ぶとともに、企業活動の背景にある基本的な「経営原理」への理解を図る。		
授業到達目標	この授業では、さまざまな企業活動がどのようにして生じ、それがなぜ必要とされるのかなどを考えていくための題材や考え方が示される。受講生はこの学習に基づき、企業経営に関する疑問点や問題点を発見・整理し、これを解いていく力を身につけていくことができる。		
授業方法 (学習指導法)	必要に応じ、プリント、ビデオ、教材提示装置などを利用しながら、基本的には講義形式で行う。また、グループワークも行うことがあるので、積極的に授業に参加することが求められる。		
授業内容	(土橋担当分) 第1回 イン트로ダクション 第2回 経営学の全体像 第3回 会社とはなにか 第4回 企業統治とCSR 第5回 組織と戦略① 第6回 組織と戦略② 第7回 まとめ (後藤担当分) 第8回 イン트로ダクション 第9回 組織と個人 第10回 モチベーション1 第11回 モチベーション2 第12回 リーダーシップ1 第13回 リーダーシップ2 第14回 まとめ		

	第15回 最終まとめ（土橋・後藤）
キーワード	会社, 企業経営, 経営環境
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。
成績評価の方法・基準等	両教員が50点ずつを持ち分とする。 土橋担当分は、期末試験50点とする。 後藤担当分は、期末試験50点とする。
受講要件（履修条件）	なし
備考（URL）	
学生へのメッセージ	受講生は二人の教員の講義を連続して受ける（どちらか一方の教員の講義のみを受けることのないように）。講義中の私語は認めない。新聞などの最新の報道に関心を持つこと。



タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505000502	科目番号	15050005
授業科目名	現代経営概論		
編集担当教員	土橋 力也		
授業担当教員名(科目責任者)	土橋 力也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土橋 力也, 後藤 祐一		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	trikiya@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所 308室		
担当教員TEL	095-820-6355		
担当教員オフィスアワー	授業終了後。その他の時間を希望する場合は、アポイントを取って下さい。		
授業の概要及び位置づけ	企業経営に関する身近な話題をとりいれながら、企業活動や組織運営の基礎理論を学ぶとともに、企業活動の背景にある基本的な「経営原理」への理解を図る。		
授業到達目標	この授業では、さまざまな企業活動がどのようにして生じ、それがなぜ必要とされるのかなどを考えていくための題材や考え方が示される。受講生はこの学習に基づき、企業経営に関する疑問点や問題点を発見・整理し、これを解いていく力を身につけていくことができる。		
授業方法 (学習指導法)	必要に応じ、プリント、ビデオ、教材提示装置などを利用しながら、基本的には講義形式で行う。また、グループワークも行うことがあるので、積極的に授業に参加することが求められる。		
授業内容	<p>(土橋担当分)</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 経営学の全体像 第3回 会社とはなにか 第4回 企業統治とCSR 第5回 組織と戦略① 第6回 組織と戦略② 第7回 まとめ</p> <p>(後藤担当分)</p> <p>第8回 イン트로ダクション 第9回 組織と個人 第10回 モチベーション1 第11回 モチベーション2 第12回 リーダーシップ1 第13回 リーダーシップ2 第14回 まとめ</p>		

	第15回 最終まとめ（土橋・後藤）
キーワード	会社, 企業経営, 経営環境
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。
成績評価の方法・基準等	両教員が50点ずつを持ち分とする。 土橋担当分は、期末試験50点とする。 後藤担当分は、期末試験50点とする。
受講要件（履修条件）	なし
備考（URL）	
学生へのメッセージ	受講生は二人の教員の講義を連続して受ける（どちらか一方の教員の講義のみをうけることのないように）。講義中の私語は認めない。新聞などの最新の報道に関心を持つこと。



タイトル「**2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）**」、開講所属「**経済学部**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517002101	科目番号	15170021
授業科目名	法学概論		
編集担当教員	笹川 篤史		
授業担当教員名(科目責任者)	笹川 篤史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	笹川 篤史, 張 笑男		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)	1年		
担当教員Eメールアドレス	sasagawa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	【笹川】 東南アジア研究所318号室 【張】 東南アジア研究所310号室		
担当教員TEL	【笹川】 095-820-6331		
担当教員オフィスアワー	笹川:金曜日午前 (事前にEメールで予約を取ること。) 張:火曜日 (事前にEメールで予約を取ること。)		
授業の概要及び位置づけ	<p>【笹川】 租税法、行政法、労働法、消費者法といった経済活動を関係の深い法律について講義する。 導入科目として、法律・判例の学び方・調べ方を学ぶ。 【張】 法学に関する基本的な知識を提供する。</p>		
授業到達目標	<p>【笹川】 経済活動と関係の深い法律についての基本的事項、法律を学ぶ意義について理解し、概要を説明できるようになる。 【張】 企業の経済活動及び個人の日常生活に関する様々な事象を、法学特有の考え方から考察できるようになる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>授業は2クラス編成で行われ「前半」に張担当分を受講するクラスと笹川担当分を受講するクラスに分かれる。 「後半」は担当する教員が入れ替わる形式で行われる。このとき受講生は教室を移動しない。 【笹川】 教科書、LACS掲載資料、配布資料による講義。クリッカーを利用する場合あり。 【張】 教科書、LACS掲載資料、配布資料による講義。</p>		
	<p>授業内容 (概要) 【笹川】 税法を中心に経済活動と関連のある法律を扱う。 (外部講師による特別講義により、一部変更となる可能性がある。) 第1回 イントロダクション 第2回 税制と財政 第3回 所得税法 第4回 消費税法 第5回 労働法 第6回 消費者法 第7回 まとめ (試験を含む)</p>		

授業内容	<p>第8回 法人税法、行政法、授業の総括 【張】</p> <p>第9回 法とは何か・法の適用</p> <p>第10回 裁判の基準となるもの・法の解釈</p> <p>第11回 法の体系・国家と憲法</p> <p>第12回 犯罪と法</p> <p>第13回 家族生活と法</p> <p>第14回 財産関係と法</p> <p>第15回 国際社会と法・試験</p>
キーワード	租税法、行政法、労働法、消費者法
教科書・教材・参考書	<p>【笹川】教科書：『税法概論11訂版』</p> <p>参考書：『法学への招待状』、『法学への招待』、『私たちと法』、『なるほど！法律学入門』、『新・なるほど！公法入門』、『国家試験受験のためのよくわかる行政法 第4版』、『はじめての行政法 第2版』（皇山）、『公務員のための行政法入門』、『行政法入門 第9版』（今村）、『行政法入門 第6版』（藤田）、『現代行政法入門 第2版』、『レクチャー行政法 第3版』</p> <p>【張】教科書：伊藤正己・加藤一郎「現代法学入門（第4版）」（有斐閣、2005年）</p>
成績評価の方法・基準等	<p>両教員が50点ずつを持ち分とする。</p> <p>【笹川】授業中に実施するテスト（教科書持ち込み可）による評価、LACSによるテスト、課題提出を総合評価する。（期末試験は実施しない。）</p> <p>【張】授業中に実施するテストによる評価。併わせて、LACSによるテストを実施する場合がある。期末試験は実施しない。</p>
受講要件（履修条件）	【笹川】高校で「現代社会」または「政治経済」を履修した学生は、復習しておくことが望ましい。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	【笹川】授業時間外に、各自でインターネットを利用した課題作成を行います。資料を事前にLACSに掲載するので、予習・復習に活用して下さい。



タイトル「**2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）**」、開講所属「**経済学部**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517002102	科目番号	15170021
授業科目名	法学概論		
編集担当教員	張 笑男		
授業担当教員名(科目責任者)	張 笑男		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	張 笑男, 笹川 篤史		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 2 講義室		
対象学生 (クラス等)	1,3,4		
担当教員Eメールアドレス	【張】 choshonan@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	【張】 東南アジア研究所310		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	【張】 火曜日 (事前にEメールで連絡が必要) 【笹川】 金曜日午前 (事前にEメールで連絡が必要)		
授業の概要及び位置づけ	【張】 法学に関する基本的な知識を提供する。 【笹川】 租税法、行政法、労働法、消費者法といった経済活動を関係の深い法律について講義する。 導入科目として、法律・判例の学び方・調べ方を学ぶ。		
授業到達目標	【張】 企業の経済活動及び個人の日常生活に関する様々な事象を、法学特有の考え方から考察できるようになる。 【笹川】 経済活動と関係の深い法律についての基本的事項、法律を学ぶ意義について理解し、概要を説明できるようになる。		
授業方法 (学習指導法)	授業は2クラス編成で行われ「前半」に張担当分を受講するクラスと笹川担当分を受講するクラスに分かれる。 「後半」は担当する教員が入れ替わる形式で行われる。このとき受講生は教室を移動しない。 【笹川】 教科書、LACS掲載資料、配布資料による講義。クリッカーを利用する場合あり。 【張】 教科書、LACS掲載資料、配布資料による講義。		
	授業内容 (概要) 【張】 第1回～第8回。 【笹川】 第9回～第16回。税法を中心に経済活動と関連のある法律を扱う。(外部講師による特別講義により、一部変更となる可能性がある。)		
	回	内容	
	1	法とは何か・法の適用	
	2	裁判の基準となるもの・法の解釈	
	3	法の体系・国家と憲法	

授業内容	4	犯罪と法	
	5	家族生活と法	
	6	財産関係と法	
	7	国際社会と法	
	8	前半まとめ（試験を含む）	
	9	イントロダクション、所得税法	
	10	税制と財政	
	11	所得税法	
	12	消費税法	
	13	労働法	
	14	消費者法	
	15	後半まとめ（試験を含む）	
	16	法人税法、行政法、授業の総括	
	キーワード	租税法、行政法、労働法、消費者法	
	教科書・教材・参考書	<p>【張】教科書：伊藤正己・加藤一郎「現代法学入門（第4版）」（有斐閣、2005年）</p> <p>【笹川】教科書：『税法概論11訂版』</p> <p>参考書：『法学への招待状』、『法学への招待』、『私たちと法』、『なるほど！法律学入門』、『新・なるほど！公法入門』、『国家試験受験のためのよくわかる行政法 第4版』、『はじめての行政法 第2版』（畠山）、『公務員のための行政法入門』、『行政法入門 第9版』（今村）、『行政法入門 第6版』（藤田）、『現代行政法入門 第2版』、『レクチャー行政法第3版』</p>	
	成績評価の方法・基準等	<p>両教員が50点ずつを持ち分とする。</p> <p>【張】授業中に実施するテストによる評価。併わせて、LACSによるテストを実施する場合がある。期末試験は実施しない。</p> <p>【笹川】授業中に実施するテスト（教科書持ち込み可）による評価、LACSによるテスト、課題提出を総合評価する。（期末試験は実施しない。）</p>	
受講要件（履修条件）	【笹川】高校で「現代社会」または「政治経済」を履修した学生は、復習しておくことが望ましい。		
備考（URL）			
学生へのメッセージ	【笹川】授業時間外に、各自でインターネットを利用した課題作成を行います。資料を事前にLACSに掲載するので、予習・復習に活用して下さい。		



タイトル「**2014年度シラバス (多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科)**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001501	科目番号	15170015
授業科目名	金融概論		
編集担当教員	式見 雅代		
授業担当教員名(科目責任者)	式見 雅代		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	式見 雅代, 山口 聖		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)	1年		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	式見 本館630; 山口 本館625		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	講義の前後10分。その他の時間についてはメールにて予約を取ってください。		
授業の概要及び位置づけ	入門レベルの金融論を講義します。2年次以降の経済学部、特にファイナンスコースの授業への備えとなります。		
授業到達目標	金融が、消費者や企業の活動に、どのような機能を果たしているかを説明できる。 銀行の機能とそれが果たされるためにどのような仕組みが設けられているかが説明できる。 利子率とは何か、利子率はどのように決まるかが説明できる。		
授業方法 (学習指導法)	講義形式で行います。教科書、及び配布資料を用いて講義します。宿題も数回あります。		
授業内容	<式見・山口担当分> 第1回 ガイダンス <式見担当分> 第2回 貨幣による決済：電子マネーは貨幣？ (テキスト第1章) 第3回 銀行と決済制度 (テキスト第1章) 第4回 貨幣の供給 (テキスト第2章) 第5回 決済システムの安定性 (テキスト第2章) 第6回 貨幣の過不足と金融 (テキスト第3章) 第7回 直接金融 (テキスト第4章) 第8回 親和銀行からの外部講師による講義 <山口担当分> 第9回 間接金融の仕組み (1) (テキスト第5章) 第10回 間接金融の仕組み (2) (テキスト第5章) 第11回 金融市場と金融資産 (テキスト第6章) 第12回 リスクと金融制度 (テキスト第7章) 第13回 金利と資産の価格 (1) (テキスト第8章) 第14回 金利と資産の価格 (2) (テキスト第8章) <式見・山口担当分> 第15回 まとめと復習		

	第16回 期末試験
キーワード	金融、ファイナンス
教科書・教材・参考書	【教科書】 岩田規久男『テキストブック金融入門』東洋経済新報社、2008年。 【参考書】 池尾和人『現代の金融入門』新版、ちくま新書、2010年。
成績評価の方法・基準等	両教員が50点ずつを持分とした期末試験による評価。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	授業の進捗状況により、シラバス内容や授業の進め方、教科書の使用範囲などを調整変更することがあります。学習方法としては、教科書をよく読むことを勧めます。新聞等で報道される金融に関するニュースに関心を持ってください。 教員のメールアドレスは以下のとおり。 式見 mshikimi@nagasaki-u.ac.jp 山口 str-yamaguchi@nagasaki-u.ac.jp



タイトル「**2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）**」、開講所属「**経済学部**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505000301	科目番号	15050003
授業科目名	現代金融概論		
編集担当教員	式見 雅代		
授業担当教員名(科目責任者)	式見 雅代		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	式見 雅代, 山口 聖		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目、自由（全学・専門）		
対象年次	1年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生（クラス等）	1年		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	山口 本館625; 式見 本館630		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	講義の前後10分。その他の時間についてはメールにて予約を取ってください。		
授業の概要及び位置づけ	入門レベルの金融論を講義します。2年次以降の経済学部、特にファイナンスコースの授業への備えとなります。		
授業到達目標	金融が、消費者や企業の活動に、どのような機能を果たしているかを説明できる。 銀行の機能とそれが果たされるためにどのような仕組みが設けられているかが説明できる。 利子率とは何か、利子率はどのように決まるかが説明できる。		
授業方法（学習指導法）	講義形式で行います。教科書、及び配布資料を用いて講義します。宿題も数回あります。		
授業内容	<式見・山口担当分> 第 1 回 ガイダンス <山口担当分> 第 2 回 間接金融の仕組み (1) (テキスト第5章) 第 3 回 間接金融の仕組み (2) (テキスト第5章) 第 4 回 金融市場と金融資産 (テキスト第6章) 第 5 回 リスクと金融制度 (テキスト第7章) 第 6 回 金利と資産の価格 (1) (テキスト第8章) 第 7 回 金利と資産の価格 (2) (テキスト第8章) 第 8 回 親和銀行からの外部講師による講義 <式見担当分> 第 9 回 貨幣による決済：電子マネーは貨幣？ (テキスト第1章) 第 10 回 銀行と決済制度 (テキスト第1章) 第 11 回 貨幣の供給 (テキスト第2章) 第 12 回 決済システムの安定性 (テキスト第2章) 第 13 回 貨幣の過不足と金融 (テキスト第3章) 第 14 回 直接金融 (テキスト第4章) 第 15 回 まとめと復習 第 16 回 期末試験		

キーワード	金融、ファイナンス
教科書・教材・参考書	【教科書】 岩田規久男『テキストブック金融入門』東洋経済新報社、2008年。 【参考書】 池尾和人『現代の金融入門』新版、ちくま新書、2010年。
成績評価の方法・基準等	両教員が50点ずつを持分とした期末試験による評価。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	授業の進捗状況により、シラバス内容や授業の進め方、教科書の使用範囲などを調整変更することがあります。学習方法としては、教科書をよく読むことを勧めます。新聞等で報道される金融に関するニュースに関心を持ってください。



タイトル「**2014年度シラバス (多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科)**」、開講所属「**経済学部**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001502	科目番号	15170015
授業科目名	金融概論		
編集担当教員	山口 聖		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 聖		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 聖, 式見 雅代		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	式見 本館630; 山口 本館625		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	講義の前後10分。その他の時間についてはメールにて予約を取ってください。		
授業の概要及び位置づけ	入門レベルの金融論を講義します。2年次以降の経済学部、特にファイナンスコースの授業への備えとなります。		
授業到達目標	金融が、消費者や企業の活動に、どのような機能を果たしているかを説明できる。		
授業方法 (学習指導法)	講義形式で行います。教科書、及び配布資料を用いて講義します。宿題も数回あります。		
授業内容	<式見・山口担当分> 第 1 回 ガイダンス <山口担当分> 第 2 回 間接金融の仕組み (1) (テキスト第5章) 第 3 回 間接金融の仕組み (2) (テキスト第5章) 第 4 回 金融市場と金融資産 (テキスト第6章) 第 5 回 リスクと金融制度 (テキスト第7章) 第 6 回 金利と資産の価格 (1) (テキスト第8章) 第 7 回 金利と資産の価格 (2) (テキスト第8章) 第 8 回 親和銀行からの外部講師による講義 <式見担当分> 第 9 回 貨幣による決済：電子マネーは貨幣？ (テキスト第1章) 第 1 0 回 銀行と決済制度 (テキスト第1章) 第 1 1 回 貨幣の供給 (テキスト第2章) 第 1 2 回 決済システムの安定性 (テキスト第2章) 第 1 3 回 貨幣の過不足と金融 (テキスト第3章) 第 1 4 回 直接金融 (テキスト第4章) <式見・山口担当分> 第 1 5 回 まとめと復習 第 1 6 回 期末試験		
キーワード	金融、ファイナンス		

教科書・教材・参考書	【教科書】 岩田規久男『テキストブック金融入門』東洋経済新報社、2008年。 【参考書】 池尾和人『現代の金融入門』新版、ちくま新書、2010年。
成績評価の方法・基準等	両教員が50点ずつを持分とした期末試験による評価。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	授業の進捗状況により、シラバス内容や授業の進め方、教科書の使用範囲などを調整変更することがあります。学習方法としては、教科書をよく読むことを勧めます。新聞等で報道される金融に関するニュースに関心を持ってください。 教員のメールアドレスは以下のとおり。 式見 mshikimi@nagasaki-u.ac.jp 山口 str-yamaguchi@nagasaki-u.ac.jp



タイトル「**2014年度シラバス (多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科)**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505000302	科目番号	15050003
授業科目名	現代金融概論		
編集担当教員	山口 聖		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 聖		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 聖, 式見 雅代		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目、自由 (全学・専門)		
対象年次	1年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	式見 本館630; 山口 本館625		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	講義の前後10分。その他の時間についてはメールにて予約を取ってください。		
授業の概要及び位置づけ	入門レベルの金融論を講義します。2年次以降の経済学部、特にファイナンスコースの授業への備えとなります。		
授業到達目標	金融が、消費者や企業の活動に、どのような機能を果たしているかを説明できる。		
授業方法 (学習指導法)	講義形式で行います。教科書、及び配布資料を用いて講義します。宿題も数回あります。		
授業内容	<式見・山口担当分> 第 1 回 ガイダンス <山口担当分> 第 2 回 間接金融の仕組み (1) (テキスト第5章) 第 3 回 間接金融の仕組み (2) (テキスト第5章) 第 4 回 金融市場と金融資産 (テキスト第6章) 第 5 回 リスクと金融制度 (テキスト第7章) 第 6 回 金利と資産の価格 (1) (テキスト第8章) 第 7 回 金利と資産の価格 (2) (テキスト第8章) 第 8 回 親和銀行からの外部講師による講義 <式見担当分> 第 9 回 貨幣による決済：電子マネーは貨幣？ (テキスト第1章) 第 10 回 銀行と決済制度 (テキスト第1章) 第 11 回 貨幣の供給 (テキスト第2章) 第 12 回 決済システムの安定性 (テキスト第2章) 第 13 回 貨幣の過不足と金融 (テキスト第3章) 第 14 回 直接金融 (テキスト第4章) <式見・山口担当分> 第 15 回 まとめと復習 第 16 回 期末試験		
キーワード	金融、ファイナンス		

教科書・教材・参考書	【教科書】 岩田規久男『テキストブック金融入門』東洋経済新報社、2008年。 【参考書】 池尾和人『現代の金融入門』新版、ちくま新書、2010年。
成績評価の方法・基準等	両教員が50点ずつを持分とした期末試験による評価。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	授業の進捗状況により、シラバス内容や授業の進め方、教科書の使用範囲などを調整変更することがあります。学習方法としては、教科書をよく読むことを勧めます。新聞等で報道される金融に関するニュースに関心を持ってください。 教員のメールアドレスは以下のとおり。 式見 mshikimi@nagasaki-u.ac.jp 山口 str-yamaguchi@nagasaki-u.ac.jp



タイトル「**2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）**」、開講所属「**経済学部**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517002301	科目番号	15170023
授業科目名	国際関係概論(GSR論)		
編集担当教員	宇都宮 謙		
授業担当教員名(科目責任者)	宇都宮 謙		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宇都宮 謙, 谷口 眞司, 藤田 泰昌, 小野 康子		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 経済学部講堂		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	yuzuru@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所209室		
担当教員TEL	+81958206384		
担当教員オフィスアワー	木曜日講義終了時から16時まで。		
授業の概要及び位置づけ	<p>本講義は、国際的諸課題を理解するために必要な知識を提供するとともに、本学が提供する関連講義について、道標を提供する。特に、本講義は、以下3点を達成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国が国際社会に対して貢献することは、不可欠であることを知る。 2. いかなる諸課題が、われわれを取り巻く国際社会において存在するか、確認する。 3. 国際的課題を学ぶときに要求される基本的用語・概念について、知識を獲得する。 		
授業到達目標	本講義が終了したとき、修了した学生が、外国人とともに課題解決する際、自分はどのような貢献が可能か認識できるようになることを目指す。		
授業方法 (学習指導法)	講義		
	回	内容	
	1	第1回 (4月10日、谷口担当) 東アジアにおける政策協調：持続可能な経済成長実現に向けた我が国の役割	
	2	第2回 (4月17日、谷口担当) 東アジアにおける政策協調：持続可能な経済成長実現に向けた我が国の役割	
	3	第3回 (4月24日) ゲストスピーカーによるご講話	
	4	第4回 (5月1日、藤田担当) 国際社会による開発援助の問題点	
	5	第5回 (5月8日、藤田担当) 国際社会による開発援助の問題点	
	6	第6回 (5月15日) ゲストスピーカーによるご講話	
	7	第7回 (5月22日、小野担当) 開発途上国における初等教育：初等教育普及にむけた取り組みと課題	
		第8回 (5月29日、小野担当) 開発途上国における初等教育：初等教育普及にむけた取	

授業内容	8	り組みと課題
	9	第9回（6月5日） ゲストスピーカーによるご講話
	10	第10回（6月12日、宇都宮担当） 本邦企業による国際貢献：企業進出がもたらす利得と問題
	11	第11回（6月19日、宇都宮担当） 本邦企業による国際貢献：企業進出がもたらす利得と問題
	12	第12回（6月26日） ゲストスピーカーによるご講話
	13	第13回（7月3日、宇都宮担当） 本邦企業による国際貢献：企業進出がもたらす利得と問題
	14	第14回（7月10日） ゲストスピーカーによるご講話
	15	第15回（7月17日） ゲストスピーカーによるご講話
	16	第16回（7月24日、宇都宮担当） 総括
キーワード		
教科書・教材・参考書	<p>担当教員が教科書を作成・配布する。教科書形式は、スマートフォンないし必携PCにて閲覧可能な様式とする。受講各位は、前期端末を準備されたい。</p> <p>配布方法は別途指示する。</p> <p>参考文献を、下記に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 勝間 靖 編著(2012) 『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』 ミネルヴァ書房。 2. 黒田一雄・横関祐見子編著(2005) 「国際教育開発論－理論と実践」 有斐閣。 	
成績評価の方法・基準等	<p>各担当教員が実施する小テスト（@10%×4回=40%） 定期試験（60%）</p>	
受講要件（履修条件）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者は、4回以上欠席した場合、理由の如何を問わず、定期試験を受験する権利を失う。 2. 遅刻してはいけない。 3. 講義受講後、教科書やLACSにアップロードする教材等を用いて、入念に復習することを期待する。 4. 質問等は、各担当教員へ躊躇せず寄せられたい。 	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係について、大いに関心を持ってくれることを、期待する。 2. 質問や意見は、大歓迎する。ふるって、寄せていただきたい。 3. 各講師連絡先等については、担当各回冒頭に各講師から紹介される。 	



タイトル「**2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505001101	科目番号	15050011
授業科目名	国際関係概論		
編集担当教員	宇都宮 謙		
授業担当教員名(科目責任者)	宇都宮 謙		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宇都宮 謙, 谷口 眞司, 藤田 泰昌, 小野 康子		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目、自由（全学・専門）		
対象年次	1年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 経済学部講堂		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	yuzuru@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所209室		
担当教員TEL	+81958206384		
担当教員オフィスアワー	木曜日講義終了時から16時まで。		
授業の概要及び位置づけ	<p>本講義は、国際的諸課題を理解するために必要な知識を提供するとともに、本学が提供する関連講義について、道標を提供する。特に、本講義は、以下3点を達成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> わが国が国際社会に対して貢献することは、不可欠であることを知る。 いかなる諸課題が、われわれを取り巻く国際社会において存在するか、確認する。 国際的課題を学ぶときに要求される基本的用語・概念について、知識を獲得する。 		
授業到達目標	本講義が終了したとき、修了した学生が、外国人とともに課題解決する際、自分はどのような貢献が可能か認識できるようになることを目指す。		
授業方法（学習指導法）	講義		
	回	内容	
	1	第1回（4月10日、谷口担当） 東アジアにおける政策協調：持続可能な経済成長実現に向けた我が国の役割	
	2	第2回（4月17日、谷口担当） 東アジアにおける政策協調：持続可能な経済成長実現に向けた我が国の役割	
	3	第3回（4月24日） ゲストスピーカーによるご講話	
	4	第4回（5月1日、藤田担当） 国際社会による開発援助の問題点	
	5	第5回（5月8日、藤田担当） 国際社会による開発援助の問題点	
	6	第6回（5月15日） ゲストスピーカーによるご講話	
	7	第7回（5月22日、小野担当） 開発途上国における初等教育：初等教育普及にむけた取り組みと課題	
		第8回（5月29日、小野担当） 開発途上国における初等教育：初等教育普及にむけた取	

授業内容	8	り組みと課題
	9	第9回（6月5日） ゲストスピーカーによるご講話
	10	第10回（6月12日、宇都宮担当） 本邦企業による国際貢献：企業進出がもたらす利得と問題
	11	第11回（6月19日、宇都宮担当） 本邦企業による国際貢献：企業進出がもたらす利得と問題
	12	第12回（6月26日） ゲストスピーカーによるご講話
	13	第13回（7月3日、宇都宮担当） 本邦企業による国際貢献：企業進出がもたらす利得と問題
	14	第14回（7月10日） ゲストスピーカーによるご講話
	15	第15回（7月17日） ゲストスピーカーによるご講話
	16	第16回（7月24日、宇都宮担当） 総括
キーワード		
教科書・教材・参考書	<p>担当教員が教科書を作成・配布する。教科書形式は、スマートフォンないし必携PCにて閲覧可能な様式とする。受講各位は、前期端末を準備されたい。</p> <p>配布方法は別途指示する。</p> <p>参考文献を、下記に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 勝間 靖 編著(2012) 『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』 ミネルヴァ書房。 黒田一雄・横関祐見子編著(2005) 「国際教育開発論－理論と実践」 有斐閣。 	
成績評価の方法・基準等	<p>各担当教員が実施する小テスト（@10%×4回=40%）</p> <p>定期試験（60%）</p>	
受講要件（履修条件）	<ol style="list-style-type: none"> 受講者は、4回以上欠席した場合、理由の如何を問わず、定期試験を受験する権利を失う。 遅刻してはいけない。 講義受講後、教科書やLACSにアップロードする教材等を用いて、入念に復習することを期待する。 質問等は、各担当教員へ躊躇せず寄せられたい。 	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 国際関係について、大いに関心を持ってくれることを、期待する。 質問や意見は、大歓迎する。ふるって、寄せていただきたい。 各講師連絡先等については、担当各回冒頭に各講師から紹介される。 	



タイトル「**2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001301	科目番号	15170013
授業科目名	経済数学入門		
編集担当教員	藤田 渉		
授業担当教員名(科目責任者)	藤田 渉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤田 渉,丸山 幸宏		
科目分類	学部モジュール科目、自由科目（教養・専門		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館12講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	wfujita@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所204号室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜日12:00～12:50		
授業の概要及び位置づけ	経済学や経営学で用いられる共通言語、また分析道具としての数学の基礎の修得。		
授業到達目標	関数および微分の基礎的概念や計算方法について理解するとともに、簡単な経済的問題への応用を可能とすることを目標として掲げる。		
授業方法（学習指導法）	テキストに沿って講義形式で行う。		
授業内容	主として微分法およびその応用（最適化問題）について講義を行う。なお科目の性格上、各自による復習（練習問題を使った反復練習など）が必須である。		
	回	内容	
	1	イントロダクション（本講義の目的、なぜ「経済学部」で「数学」を学習するのか？） 基本的事項①（利子計算）	
	2	基本的事項②（現在価値計算）	
	3	基本的事項③（指数関数）	
	4	基本的事項④（対数関数）	
	5	1変数関数の微分①（1変数関数の微分）	
	6	1変数関数の微分②（導関数を求める公式）	
	7	1変数関数の微分③（合成関数と逆関数の導関数、指数関数と対数関数の微分）	
	8	1変数関数の微分④（高階の導関数、関数の極値）	
	9	中間総括（中間試験）など	
	10	多変数関数の微分①（多変数関数、偏微分）	
	11	多変数関数の微分②（全微分、陰関数の微分）	
12	多変数関数の微分③（2変数関数の合成関数の微分）		

	13 最適化問題（制約条件なし）
	14 最適化問題（制約条件あり）
	15 総括
	16 定期試験
キーワード	経済数学、関数、微分、最適化
教科書・教材・参考書	教科書：藤田渉・福澤勝彦・秋本耕二・中村博和（編）『経済数学』勁草書房、2000年。 参考書：A. C. チャン・K. ウェインライト（著）（小田正雄・高森寛・森崎初男・森平爽一郎（訳））『現代経済学の数学基礎（上）』シーエーピー出版、2010年。
成績評価の方法・基準等	中間試験50%、期末試験50%とする。ただし、いずれかの試験を受験しなかった場合は失格とする。
受講要件（履修条件）	特になし（高校における数学Ⅰ以上の基礎があれば十分に着手可能である）。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス (多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科)**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001302	科目番号	15170013
授業科目名	経済数学入門		
編集担当教員	丸山 幸宏		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 幸宏		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 幸宏, 藤田 渉		
科目分類	学部モジュール科目、自由科目 (教養・専門)		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館22講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	maruyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館530号室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜日12:00~12:50		
授業の概要及び位置づけ	経済学や経営学で用いられる共通言語、また分析道具としての数学の基礎の修得。		
授業到達目標	関数および微分の基礎的概念や計算方法について理解するとともに、簡単な経済的問題への応用を可能とすることを目標として掲げる。		
授業方法 (学習指導法)	テキストに沿って講義形式で行う。		
授業内容	主として微分法およびその応用 (最適化問題) について講義を行う。なお科目の性格上、各自による復習 (練習問題を使った反復練習など) が必須である。		
	回	内容	
	1	イントロダクション (本講義の目的、なぜ「経済学部」で「数学」を学習するのか?) 基本的事項① (利子計算)	
	2	基本的事項② (現在価値計算)	
	3	基本的事項③ (指数関数)	
	4	基本的事項④ (対数関数)	
	5	1変数関数の微分① (1変数関数の微分)	
	6	1変数関数の微分② (導関数を求める公式)	
	7	1変数関数の微分③ (合成関数と逆関数の導関数、指数関数と対数関数の微分)	
	8	1変数関数の微分④ (高階の導関数、関数の極値)	
	9	中間総括 (中間試験) など	
	10	多変数関数の微分① (多変数関数、偏微分)	
	11	多変数関数の微分② (全微分、陰関数の微分)	
12	多変数関数の微分③ (2変数関数の合成関数の微分)		

	13 最適化問題（制約条件なし）
	14 最適化問題（制約条件あり）
	15 総括
	16 定期試験
キーワード	経済数学、関数、微分、最適化
教科書・教材・参考書	教科書：藤田渉・福澤勝彦・秋本耕二・中村博和（編）『経済数学』勁草書房、2000年。 参考書：A. C. チャン・K. ウェインライト（著）（小田正雄・高森寛・森崎初男・森平爽一郎（訳））『現代経済学の数学基礎（上）』シーエーピー出版、2010年。
成績評価の方法・基準等	中間試験50%、期末試験50%とする。ただし、いずれかの試験を受験しなかった場合は失格とする。
受講要件（履修条件）	特になし（高校における数学Ⅰ以上の基礎があれば十分に着手可能である）。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス (多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科)**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001903	科目番号	15170019
授業科目名	経済概論		
編集担当教員	藤田 渉		
授業担当教員名(科目責任者)	藤田 渉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤田 渉		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館12講義室		
対象学生 (クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	wfujita@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所204		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月曜日17:40~18:00 (必ずEメールでアポイントメントをとること)		
授業の概要及び位置づけ	①経済学的なものの見方について知識を取得する。 ②経済学の用語、論理についての知識を取得する。 ③経済学の考え方と、抽象的なモデルの関係を知る。		
授業到達目標	①経済学を学ぶにあたっての足がかりを形成する。 ②基本的な経済学用語と使われ方について理解する。 ③経済学の考え方と、モデルの利用を理解する。		
授業方法 (学習指導法)	指定テキストおよび、必要に応じて配布する資料に沿って講義形式で行う。毎回の課題提出で理解を深める。		
授業内容	人々のあれこれと欲しがる欲望に対して、限りのあるモノをどのような用途にどのように振り分けたらよいか、ということが経済学の考え方の第一歩です。ここから始まり、モノや労働の価格というものは何を意味するのか、また消費者としての自分たち、また労働力としての自分たちは、大きな経済社会の中で企業や政府と並んで、どのように考えるべきなのかを理解して行きます。さらに、マクロ経済学、またミクロ経済学への関連と「モデル」といった進んだ考え方に触れて行きます。		
	回	内容	
	1	イントロダクション・数式アレルギーを癒す (1)	
	2	数式アレルギーを癒す (2)	
	3	経済学で使うグラフの読み方・一次関数の式とグラフ	
	4	経済学で使う二次関数の式とグラフ	
	5	経済学で使う三次関数の式とグラフ	
	6	経済学で使う微分の意味と計算方法 (1)	
7	経済学で使う微分の意味と計算方法 (2)		

	8	中間総括（中間試験）など
	9	経済学で使う偏微分の意味と計算（1）
	10	経済学で使う偏微分の意味と計算（2）
	11	単利と複利の計算（1）
	12	単利と複利の計算（2）
	13	割引現在価値
	14	等比級数の和
	15	平均と分散
	16	授業の総括（試験含む）
キーワード	経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学、中高校数学	
教科書・教材・参考書	石川秀樹『経済学と経済学に必要な数学がイッキにわかる！！』学研教育出版、2009	
成績評価の方法・基準等	中間・期末試験等70%、課題・レポート・小テスト等30%	
受講要件（履修条件）	特に無し	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス (多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科)**」、開講所属「**経済学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505000703	科目番号	15050007
授業科目名	現代経済概論		
編集担当教員	藤田 渉		
授業担当教員名(科目責任者)	藤田 渉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤田 渉		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	wfujita@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所204		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月曜日17:40~18:00 (必ずEメールでアポイントメントをとること)		
授業の概要及び位置づけ	①経済学的なもの見方について知識を取得する。 ②経済学の用語、論理についての知識を取得する。 ③経済学の考え方と、抽象的なモデルの関係を知る。		
授業到達目標	①経済学を学ぶにあたっての足がかりを形成する。 ②基本的な経済学用語と使われ方について理解する。 ③経済学の考え方と、モデルの利用を理解する。		
授業方法 (学習指導法)	指定テキストおよび、必要に応じて配布する資料に沿って講義形式で行う。毎回の課題提出で理解を深める。		
授業内容	人々のあれこれと欲しがる欲望に対して、限りのあるモノをどのような用途にどのように振り分けたらよいか、ということが経済学の考え方の第一歩です。ここから始まり、モノや労働の価格というものは何を意味するのか、また消費者としての自分たち、また労働力としての自分たちは、大きな経済社会の中で企業や政府と並んで、どのように考えるべきなのかを理解して行きます。さらに、マクロ経済学、またミクロ経済学への関連と「モデル」といった進んだ考え方に触れて行きます。		
	回	内容	
	1	イントロダクション・数式アレルギーを癒す (1)	
	2	数式アレルギーを癒す (2)	
	3	経済学で使うグラフの読み方・一次関数の式とグラフ	
	4	経済学で使う二次関数の式とグラフ	
	5	経済学で使う三次関数の式とグラフ	
	6	経済学で使う微分の意味と計算方法 (1)	
7	経済学で使う微分の意味と計算方法 (2)		

	8	中間総括（中間試験）など
	9	経済学で使う偏微分の意味と計算（1）
	10	経済学で使う偏微分の意味と計算（2）
	11	単利と複利の計算（1）
	12	単利と複利の計算（2）
	13	割引現在価値
	14	等比級数の和
	15	平均と分散
	16	授業の総括（試験含む）
キーワード	経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学、中高校数学	
教科書・教材・参考書	石川秀樹『経済学と経済学に必要な数学がイッキにわかる！！』学研教育出版、2009	
成績評価の方法・基準等	中間・期末試験等70%、課題・レポート・小テスト等30%	
受講要件（履修条件）	特に無し	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001702	科目番号	15170017
授業科目名	経営概論		
編集担当教員	土橋 力也		
授業担当教員名(科目責任者)	土橋 力也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土橋 力也, 後藤 祐一		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	trikiya@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所 308室		
担当教員TEL	095-820-6355		
担当教員オフィスアワー	授業終了後。その他の時間を希望する場合は、アポイントを取って下さい。		
授業の概要及び位置づけ	企業経営に関する身近な話題をとりいれながら、企業活動や組織運営の基礎理論を学ぶとともに、企業活動の背景にある基本的な「経営原理」への理解を図る。		
授業到達目標	この授業では、さまざまな企業活動がどのようにして生じ、それがなぜ必要とされるのかなどを考えていくための題材や考え方が示される。受講生はこの学習に基づき、企業経営に関する疑問点や問題点を発見・整理し、これを解いていく力を身につけていくことができる。		
授業方法 (学習指導法)	必要に応じ、プリント、ビデオ、教材提示装置などを利用しながら、基本的には講義形式で行う。また、グループワークも行うことがあるので、積極的に授業に参加することが求められる。		
授業内容	<p>(土橋担当分)</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 経営学の全体像 第3回 会社とはなにか 第4回 企業統治とCSR 第5回 組織と戦略① 第6回 組織と戦略② 第7回 まとめ</p> <p>(後藤担当分)</p> <p>第8回 イン트로ダクション 第9回 組織と個人 第10回 モチベーション1 第11回 モチベーション2 第12回 リーダーシップ1 第13回 リーダーシップ2 第14回 まとめ</p>		

	第15回 最終まとめ（土橋・後藤）
キーワード	会社, 企業経営, 経営環境
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。
成績評価の方法・基準等	両教員が50点ずつを持ち分とする。 土橋担当分は、期末試験50点とする。 後藤担当分は、期末試験50点とする。
受講要件（履修条件）	なし
備考（URL）	
学生へのメッセージ	受講生は二人の教員の講義を連続して受ける（どちらか一方の教員の講義のみをうけることのないように）。講義中の私語は認めない。新聞などの最新の報道に関心を持つこと。



タイトル「**2014年度シラバス (多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科)**」、開講所属「**経済学部**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505000503	科目番号	15050005
授業科目名	現代経営概論		
編集担当教員	吉田 高文		
授業担当教員名(科目責任者)	吉田 高文		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉田 高文		
科目分類	学部モジュール科目、学部導入科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館12講義室		
対象学生 (クラス等)	1年		
担当教員Eメールアドレス	taka-yo@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	本館525		
担当教員TEL	0958206348		
担当教員オフィスアワー	前期火曜日17:00~18:00及び19:30~20:00 後期月曜日17:50~19:00		
授業の概要及び位置づけ	<p>授業の概要 第1回から第12回までは、企業活動と市場経済との関わりに注目しながら、会社制度とくに株式会社制度の意義を考察する。また、「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」といった経営資源の活用と管理のあり方を理解する。第13回から第15回までは、実際の経営事例をとりあげて、現実の経営問題に直面したときの考え方や対処のしかたを身につける。</p> <p>位置づけ 経済学部の基本分野の一つである経営学に関心を持たせ、その概要を理解させる。</p>		
授業到達目標	この授業では、さまざまな企業活動がどのようにして生じ、それがなぜ必要とされるのかなどを考えていくための題材や考え方が示される。受講生はこの学習に基づき、企業経営に関する疑問点や問題点を発見整理し、これを解いていく力を身につけることができる。		
授業方法 (学習指導法)	授業は講義形式。テキストは使用しない。授業中の説明は板書と教員が作成した資料を使って行う。授業内容の質問は、各回の授業終了後直接または電子メールで随時受け付ける。		
授業内容	第1回 会社の設立 第2回 株式会社制度の意義 第3回 事業機会と経営戦略 (1) 第4回 事業機会と経営戦略 (2) 第5回 人的資源管理とその必要性 (1) 第6回 人的資源管理とその必要性 (2) 第7回 生産システムとその管理 (1) 第8回 生産システムとその管理 (2) 第9回 キャッシュ・フローの管理 第10回 M&A 第11回 経営情報の利用 (1) 第12回 経営情報の利用 (2) 第13回 経営事例 (1)		

	第14回 経営事例（2） 第15回 まとめ
キーワード	企業、株式会社制度、企業経営
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。授業の教材としてプリントを配布する。
成績評価の方法・基準等	期末試験と授業中に説明する課題についての報告書（レポート）によって評価する。配点は期末試験90点、報告書（レポート）10点。
受講要件（履修条件）	なし。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	新聞などの最新の報道に関心をもつこと。



タイトル「2014年度シラバス(多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科)」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517002103	科目番号	15170021
授業科目名	法学概論		
編集担当教員	井田 洋子		
授業担当教員名(科目責任者)	井田 洋子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井田 洋子, 吉田 省三		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	smile@nagasaki-u.ac.jp, yosida-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	井田: 本館506 吉田: 本館512		
担当教員TEL	井田: 820-6401、吉田: 820-6397		
担当教員オフィスアワー	井田: 金曜日 17:30~18:30		
授業の概要及び位置づけ	井田: 国内外の具体的諸問題の考察を通じて、法の存在意義や役割についての理解を深める。 吉田: 「持続(維持)可能性」 sustainability と「公正」 fairness をキーワードに、法的な観点から現代社会の問題を考える。		
授業到達目標	公正、正義、平等等の概念の相互の関係を理解する。 法的な見方(正確な事実の確認・発見と公正な判断)の基本を身につける。 法の体系を理解する。		
授業方法(学習指導法)	配布資料に基づいて講義形式で行う。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション—法とは何か	
	2	国家と法1—憲法	
	3	国家と法2—刑法	
	4	個人と法1	
	5	個人と法2	
	6	国際社会と法1—国際連合1	
	7	国際社会と法2—国際連合2	
	8	国際社会と法3—国際刑事裁判所	
	9	戦後日本資本主義と法制度	
	10	不公正な資本主義と「優越的濫用規制」—三井住友銀行事件	
	11	コンビニ、フランチャイズ契約と「優越的地位の濫用」—セブン-イレブン事件	
	12	課徴金減免制度と独占禁止法の執行力の強化	

	13	持続可能なエネルギー・システムへの転換と法
	14	「消費者市民社会」論と消費者立法の動向
	15	「異常な契約」(ジェーン・ケルシー)としての環太平洋戦略的経済連携協定 Trans-Pacific Strategic Economic Partnership
	16	まとめ
キーワード	正義、公正、平等、人権	
教科書・教材・参考書	<p>参考文献</p> <p>第1回～第8回：講義の際に示す。</p> <p>第9回：中村正則『戦後史』岩波新書2005、新藤兵「高度成長期の国家の構造」『高度成長の時代』第1巻大月書店、2010。</p> <p>第10回：公正取引委員会『優越的乱用規制の解説』別冊公正取引、2011。</p> <p>第11回：本間重紀『コンビニの光と影』花伝社、1998。本間重紀『コンビニ・フランチャイズは何処へ行く』花伝社、2011。</p> <p>第12回：根岸哲編『注釈独占禁止法』有斐閣、2009。</p> <p>第13回：安全なエネルギー供給に関する倫理委員会『ドイツ脱原発倫理委員会報告』大月書店、2013。</p> <p>第14回：正田彬『消費者の権利新版』岩波新書、2010。</p> <p>第15回：ジェシー・ケルシー『異常な契約TPPの仮面を剥ぐ』農文協、2011。中野剛志『TPP 黒い契約』集英社新書、2013。</p>	
成績評価の方法・基準等	担当者それぞれが課すレポートの総合評価。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141517001503	科目番号	15170015
授業科目名	金融概論		
編集担当教員	深浦 厚之		
授業担当教員名(科目責任者)	深浦 厚之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	深浦 厚之		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館12講義室		
対象学生(クラス等)	1年, 3年, 4年		
担当教員Eメールアドレス	afukaura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所210		
担当教員TEL	095-820-6359		
担当教員オフィスアワー	水曜日午後5時～午後6時		
授業の概要及び位置づけ	金融に関わる基本的概念を学ぶ。		
授業到達目標	下記に示す金融に関わる基本的概念を説明できるようになること。		
授業方法(学習指導法)	講義形式による。講義において投影される講義資料がLACSおよびWebClassに公開されている。講義では配布しないので必要に応じて、WebClassからダウンロードしておくこと。		
授業内容	回	内容	
	1	金融を学ぶ視点	
	2	金融を学ぶ視点	
	3	オカネとは何か	
	4	オカネとは何か	
	5	価格とは何か	
	6	価格とは何か	
	7	物価とは何か	
	8	物価とは何か	
	9	貯蓄とは何か	
	10	貯蓄とは何か	
	11	利子率とは何か	
	12	利子率とは何か	
	13	信用とは何か	
14	レバレッジ・エクイティとは何か		

	15	破産とは何か
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。 参考書としては、「テキスト金融論」、堀江康熙・有岡律子、新世社、2012 が適当である。	
成績評価の方法・基準等	学期末試験100%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505000303	科目番号	15050003
授業科目名	現代金融概論		
編集担当教員	深浦 厚之		
授業担当教員名(科目責任者)	深浦 厚之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	深浦 厚之		
科目分類	学部モジュール科目、自由（全学・専門）		
対象年次	1年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館12講義室		
対象学生（クラス等）	1年, 3年, 4年		
担当教員Eメールアドレス	afukaura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所210		
担当教員TEL	095-820-6359		
担当教員オフィスアワー	水曜日午後5時～午後6時		
授業の概要及び位置づけ	金融に関わる基本的な概念を学ぶ。		
授業到達目標	下記に示す金融に関わる基本的な概念の説明ができるようになること。		
授業方法（学習指導法）	講義形式による。講義において投影される講義資料がLACSおよびWebClassに公開されている。講義では配布しないので必要に応じて、WebClassからダウンロードしておくこと。		
授業内容	回	内容	
	1	金融を学ぶ視点	
	2	金融を学ぶ視点	
	3	オカネとは何か	
	4	オカネとは何か	
	5	価格とは何か	
	6	価格とは何か	
	7	物価とは何か	
	8	物価とは何か	
	9	貯蓄とは何か	
	10	貯蓄とは何か	
	11	利子率とは何か	
	12	利子率とは何か	
	13	信用とは何か	
14	レバレッジ・エクイティとは何か		

	15	破産とは何か
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。 参考書としては、「テキスト金融論」、堀江康熙・有岡律子、新世社、2012 が適当である。	
成績評価の方法・基準等	学期末試験100%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「経済学部」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20141505001102	科目番号	15050011
授業科目名	国際関係概論		
編集担当教員	谷口 眞司		
授業担当教員名(科目責任者)	谷口 眞司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	谷口 眞司		
科目分類	学部モジュール科目、自由（全学・専門）		
対象年次	1年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館12講義室		
対象学生（クラス等）	1年		
担当教員Eメールアドレス	taniguchi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館624号室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜日18:00~19:30		
授業の概要及び位置づけ	東南アジアの植民地以前から現代までの歴史的な発展過程を学ぶことにより、地域の特殊性や地域が直面している諸問題を把握し理解する。		
授業到達目標	東南アジア各国の政治経済史に関する基礎的な知識を修得し、地域の諸課題や今後の方向性について歴史的背景を踏まえて考察できる。		
授業方法（学習指導法）	レジュメ、パワーポイントの活用により講義形式で行う。また、必要に応じてDVD等の視聴覚資料を使用する。		
授業内容	各回ごとに用意するレジュメ等に基づき、東南アジアの植民地以前から現代までの発展の歴史を学習する。		
	回	内容	
	1	イントロダクション（東南アジア概況）	
	2	近代以前の東南アジア	
	3	欧米植民地支配	
	4	後期植民地国家の形成と経済発展	
	5	植民地国家におけるナショナリズム	
	6	国民国家の誕生	
	7	冷戦の東南アジアへの拡大	
	8	中間まとめ（中間試験含む）	
	9	強権政治の展開（開発独裁）	
	10	製造工業の発展	
11	新冷戦と東南アジア		

	12	冷戦終結後の東南アジア
	13	民主化の動き
	14	ASEANの発展
	15	現代の東南アジア
	16	授業の総括（試験含む）
キーワード		
教科書・教材・参考書		レジュメ、パワーポイントをLACSに掲載する。 教科書：中野亜里・遠藤聡・小高泰・玉木充子・増原綾子『入門東南アジア現代政治史』福村出版2013
成績評価の方法・基準等		授業中の課題に対する積極的な取り組み状況30%、中間試験30%、期末試験40%
受講要件（履修条件）		講義で使用するレジュメやパワーポイント等はLACSに掲載しておくので、あらかじめダウンロードし持参すること。
備考（URL）		
学生へのメッセージ		

